おお大勝利

令和２年度　山東サッカー部報第５号（7 月 30 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢ・ＯＧの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

代替試合スッキリした締めくくり

7 月 11 日（土）山本戦から始まる代替試合、18 日山形城北戦、25 日山形明正戦、26 日山形学院戦の計 4 試合で終了。山本、城北、明正は同じ Y2 リーグ所属ですが、最終戦の学院は訳あってリーグ戦に参加していない。同じリーグのチームと試合をするのが今大会のコンセプトではあるが、余った日程をそのままにしておくのはもったいない。ということで、学院を含む 4 チームと戦う代替試合となった。**体育系進学を考えており、選手権まで残る予定のユッキー、ヒラマサ以外の、代替試合に残った 6 名にとっての最終戦、引退試合**。もちろん、その他のメンバーにとっても、この代で試合を行う最後の試合となる。

7 月 11 日山本戦は前号で書いたように、あまたあった得点機を逸し、逆に先制され、ぎりぎり引き分けに持ち込んだ。さあ、城北戦はどうなるか。

城北戦は 7 月 18 日（土）同じく県総合運動公園第二運動広場（人工芝）にて行われる。試合には、もちろん**清野総監督（後援会名誉会長）**、**その同期の OB 工藤先輩**、そして**後藤報道局長**の「いつものお三方」がおいでになる。また、仕事の関係で**高橋コーチ**がいらっしゃれなかったので、高橋コーチと同業でしばしば練習に参加して教えて頂いている**佐藤コーチ**にベンチ入りしてもらう。加えて、後でわかったが、この 3 月に卒業し東京の大学に入学したが、いまだオンライン授業のみで東京に行けていない**マネージャーOG アヤ（日本歯大生命歯学部 1 年）**と、アヤと同期で勉強に次ぐ勉強で忙しいはずの**〇〇ラ（駿台予備校 1 年）**が応援に駆けつけてくれていた[1]。アヤは、現在マネージャーが **2 年ミクリ**一人だし、ミクリも昨年度途中加入で遠征を経験したことがないため、8 月の秋田遠征に OBOG 枠で参加してくれることとなった。これまで、選手数の少なさから遠征に OB が参加してくれることは日常茶飯事だったが、**OG の遠征参加はこれが初めて**。アヤが東京に行くことができず時間があったという「幸運」と、サッカー部のマネージャー人気のなさという近年の恒常的課題とが合わさって、今回の遠征参加となった。この場を借りて、**アヤ頼むね！**　もちろん、〇〇ラは、モスラやジャミラなどのニックネームの伏せた表現ではないし、オクラやイクラなどの食べ物でもない（惜しい！）。「勉強の合間に」なんて言葉は言い訳だと見抜いているぞ！

さて、この試合、**ヒラマサ、モリヤの暴走ツートップ**は前節山本戦と同じ。全節途中出場でなかなかいいシュートを放っていた **2 年ペガサスことショーマ**を先発に起用したくらいで、あとは**二刀流コーセー**を CB で起用するなど、前節と同じ。試合が始まると、ボールが落ち着

---

[1] ちなみに、天童の人工芝の試合では、敷地内には選手関係者しか入場できず、観戦者はネットの外で、という対応を今回採らせていただきました。ので、OBOG は来たと言っても、ネットの外で応援してもらい、総監督としてベンチ入りする清野さん、カメラマンとして特別に入場を許可された後藤さんのみ入場してもらいました。

かない中、セカンドボールの拾い合いでなかなか優位に立てない。山東 DF ラインがただ下がるばかりで積極的なライン up がないし、おそらくそれよりも決定的なことですがラインの stay がない。相手ボールを奪おうと FW・MF が前がかるのに対し、DF が相手のロングフィードを恐れ後ろに下がれば、MF-DF 間が広がり、そこに落ちるボールを相手に拾われる。または、相手ボールにしっかりプレッシャーがかかっており、前方へのフィードがない状況にもかかわらず相手 FW 等のフリーランニングに合わせてラインを下げれば、同様に MF-DF 間が広がる。攻撃でも守備でも大切なことは、集団で collective に戦うこと。攻撃では自ら広がることで相手選手間の距離を広げ、守備では無駄に広がらないように集結することが肝要だが、山東 DF ライン、**①相手の横パス、バックパスでライン up する（押し上げる）、②相手選手にプレッシャーがかかっており相手が前方にフィードできない状況でラインを stay する（ラインの高さを維持する）**[2]**、③相手選手にプレッシャーがかかっておらず前方にフィードされそうな状況で相手の動きよりも早めにラインを back させる**、という原則は高校生なら各選手が身につけていなければならない[3]。ほんでもって、**MF は、自分の頭を越す（足元を越しても同じ）ボールに対して、首だけ回して次の状況を確認するのではなく、自然と後方に移動する（下がる）必要がある**。でなければ、DF が相手のフィードを止めても、空いた MF-DF 間に落ちるセカンドボールを拾えない。この動き、プレスバックと言いますが、プレスバックが体に染みついていない選手は本当に多い。後ろを振り返り、「あっ、セカンドボール落ちた、拾わなきゃ」と思っているすきに相手はいち早く前方に駆け上がってしまっており、見て判断して行動するのでは、もはや手遅れ。というか、**そもそも守備時は、自分のマークなど自分の前方にいる選手への対応だけでなく、自分の後方の相手選手にボールが渡らないようにポジショニングを修正しつつ「もし渡ったらこう戻って挟み込む守備をしよう」とか「こういう長いボールが出たらこう戻ってここら辺に落ちるボールは自分で回収しよう」というイメージを持たないとダメ**。攻撃でも守備でもですが、**体の反応スピードを支えているのは頭の回転スピード**なのです。**山東の選手、残念ながら、頭が悪い！！！**　そして、これはチームの問題としてより監督の責任に直結しますが、前半の山東、FW・MF の前へのボール奪取の意識と、DF の後ろへのマンマーク・スペースマークの意識とのギャップを埋めきれず、前半の非常にシンプルな城北の攻撃を途中で止められない。

まあ、1 失点目は山東の DF の横パスを相手選手に奪われ、そのままネットを揺らされる失態によるものですし、2 失点目はアウトサイドのボールを奪いきれず簡単にセンターリング上げられ、中央で選手数が揃っているにもかかわらず相手選手にフリーでヘディングシュートを許し、失点するというもので、個の問題も大きかったが、上記のようなチームとしての戦術の問題、または、それまで身につけるべき個人戦術の問題を前半は感じた。その前半、**左 SH ナカノ**がやはりチャンスメーカーになり、ヒラマサ、モリヤに決定機を作るも、二人がことごとく外す。上述のように、前半は城北優勢だったものの、決定機は山東の方が多かった。しかし、そこで決められないのが、山東の力のなさ。

ハーフタイム、ラインの作り方について口頭で改善を求めたものの、後半は焦る山東に対して城北が伸び伸びとサッカーを展開し、内容、結果とも完敗。後半途中からコウダイをトップに上げ、まず 1 点を取りに行くものの、最後までチグハグさは否めず。結局 0 対 4 で敗れる。

---

[2] または、相手が前方にフィードできない状況であれば、横パスの可能性が高くなるため、それをインターセプトしやすくする意味で積極的にラインを上げることも一つの戦術です。

[3] 少なくとも理論としては頭に入ってなければならない。

正直、この内容には焦りました。**結果として負けるのは致し方ないとしても、あまりにも一体感に欠けた試合運び。これで引退になるとしたら、「こんなつまらない試合をして嫌な思いをするくらいだったら、6月で引退すればよかった」という思いを3年生が抱きかねない**。しかも、次節は、非常に技術が高く、昨年も地区新人で惜敗しており練習試合では完敗している明正が相手。コテンパンにやられて、引退試合でガックリくる3年生を見たくない。1週間でいきなりスキルを上げることはできないまでも、良い雰囲気でサッカーをする、試合をするということを大切にしようと呼びかけ、1週間を過ごしました。

そして、25日（土）は山形明正Gにて明正と対戦。この試合には、先の「お三方」に加え、**須貝校長も応援にいらっしゃって下さった**。一昨年までGKコーチを務め今年の冬の校内合宿にも来て下さった**齋藤さん**も、お住まいの宮城県北部からいらっしゃって下さった。暴走ツートップには限界を感じたので、**パワーとスピードに欠けるが、スキルとアイディアは感じる1年シュンスケ**をトップ下に起用してヒラマサと組ませ、モリヤを右SHにコンバート。モリヤはもともと右SBをしていた選手なので、このコンバートはスムーズ。その日、明け方まで激しい雨が降っていたので、朝方寝ぼけながら「ボールがスリッピーになるな～。そうすると、ボールを止めることができず、パスもすぐズレてしまう山東にとって、不利な状況だな～」などと感じていた。しかし、実際に明正Gの人工芝ピッチに来てみると、雨量が多すぎたか、ボールの勢いを雨が吸収し、ボールが転がりにくい。「これはチャンス」と思うところが悲しい。だって、ボールが転がらず、「サッカーにならない」方が山東にとって有利だなんて、サッカー選手として格好悪い。ともかく、DF の横パスをカットされた前節の轍を踏まないためというよりピッチコンディションへの対応として、DF 間の横パス、GK へのバックパスはせず、**少なくとも試合の入りは**ロングボールで押し込むことを指示。

試合が始まってすぐくらい、相手ゴール前（右前[4]）で疑惑の FK を獲得する。「疑惑の」というのは、確かにドリブルした者は転ばされたが、先にボールに行った足に引っ掛かっただけに見えた。まあ、ラッキー。すると、**そのFKのボールを、FKのキッカーをいつも務めるユッキーではなく、ヒラマサがセッティングしているではないか**。山本戦で「？」なFKでチャンスをフイにしたユッキーがビビったか。とはいえ、これまで公式戦でヒラマサのFKは覚えがない。「確かにパワーシュートならヒラマサも一発もっているからな～」とベンチで自分をなだめていると、ヒラマサの助走がパワーシュートを打つ直線的なものではなく、センターリングとかカーブシュートを放つ曲線的なものになっている。センターリングにしてコウダイのヘディングなどを狙うなら、いつものFKキッカーのユッキーが蹴るだろうから、これはカーブシュートになるのではないか。「ヒラマサ、もしやカーブシュートなんじゃないか。無理だから止めろよ。」と私、実際にベンチで発言しておりました。すると、**実際蹴られたボールは、壁のニア横を通り抜けゴール右隅に決まるテクニカルなカーブFK**となる。**山東、幸先良い先制！監督の予想を良い意味で裏切ってくれました！！**　自らの不明を恥じるしかない。

その後は、やはり明正のスキル、アイディアに防戦一方となる時間が長かったが、コウダイ中心に体を張り、ギリギリのところで失点を免れる。しかし、前半のうちに、CK のクリアが乱れたところを詰められて、同点にされる。もちろん、失望しましたが、振出しに戻っただけ。**選手も、リスタートのキックオフの前に軽い円陣を組んで、声を掛け合う。そう、そうなんです。こういう、自発的な選手間のコミュニケーションが重要ですし、前節欠けていたことなんです。1週間のちょっとした成長を感じたシーンでした**。後半も同様に明正に押されるも

---

[4] 相手から見たら、ペナルティエリアの中央外の左側。

のの、最後のところは踏ん張った。実際 PK を取られたときには「これまで耐えに耐えていたが、万事休すか」と観念しかけましたが、相手が PK をかなり外してくれて事無きを得る。**GK カザマ**は自分が止めたかのようにガッツポーズで吠えている。「お前が止めたんじゃないだろう」との当初の思いは、「いや、相手がカザマに気合い負けしたんだな」と解釈し直すことにしました。ともかく、**ミノル、コーセー、コウダイ、ユッキー**[5]の 4 人の DF の集中力の高さに助けられ、何とか凌ぎ切り、1 対 1 の引き分けで終了。つねづね**「スキルの差をスコアの差にしない粘り強い戦い」**が山東の信条の一つと発信しているので、この内容でこの結果は山東してやったり。見栄えのしない戦いでしたが、少なくとも、選手がピッチ内で一致団結しているように見えた。それが一番うれしかったしホッとした。ただ、1・2 年生には、**「フィジカルの差をスキルとインテリジェンスで凌駕する」**のも山東サッカーの伝統ということは、合わせ言っておきたい。

さあ、残すは最終戦の山形学院戦。場所は寒河江高校サッカー場。現在の山東には寒河江出身者が結構いるので、ここで 3 年生の最終試合を迎えることには若干の感慨がわく。**「いつものお三方」にプラスして須貝校長がこの日も駆けつけてくださった。ありがとうございます！**そして、**6 月で引退した 3 年生有志も応援に駆けつけてくれた**。そして、齋藤 GK コーチが連続で来て下さったばかりか、鶴岡から**伊藤トレーナー**もお忙しい中お越し下さった。また、**マネージャーOG アヤ**とその同期で**現在河合塾予備校 1 年ウ〇〇**も応援に来てくれた。ウ〇〇君はステイホーム期間中、勉強で忙しいはずなのに毎朝山大 G でサッカーの自主練に明け暮れていました。「ウ〇〇、（勉強の）調子どう？」と聞くと、「だいぶ、動けるようになってきました」という頓珍漢な会話もありました。大丈夫かな。

さて、学院戦、試合が始まると、シンプルに縦に蹴って圧力を強める山東の攻撃で相手を押し込む。学院の選手は、きれいに、丁寧にサッカーをすることに慣れていて、大味な試合展開に慣れていない印象があった。どんな内容でもいい、相手の不慣れを突いて立ち上がりでまずは結果が欲しい。ロングボール、サイド攻撃、CK でポストを叩く惜しい攻撃もありましたが、前半は無得点。後半は、**ボランチのエグチ、右 SH モリヤ**のプレーも的確。アウトサイドからの崩しがあり、インサイドからの penetration あり。あとは点が入るだけ。しかし、入らない。前半は一回作られた相手の決定機も後半は作らせず、完全なワンサイドゲームですが、得点が遠い。そんな中、これまで可能性の薄いミドルシュートを打ち続けてきた、すなわち、思い切りのいいシュートを打ち続けてきた**ナカノ**がとうとうやってくれました。**相手ゴール中央 20 メートル弱の距離のところで、跳ねたルーズボールをボレーシュート一閃！　きれいにネットを揺らすファインシュート**となる。「最近、自分がどんどんうまくなっている自覚あるんですよ～」と素直に語っていた彼が、やっと得点してくれました！！　**忘れずに言っておきます、ナカノさん、あとは勉強だね！！！**

結局試合は 1 対 0 の勝利となる。晴天の中、多くの応援に囲まれ、一体感のあるサッカーでもって引退できることを、とてもうれしく思いました。加えて、攻撃のバリエーション、守備の安定、そして勝利という結果もあり、なお良し。試合後は、7 月まで残った 3 年生 8 名と、退部した元マネージャーユーミを含む応援に来た 3 年生引退者有志とで、集合写真を撮っており、気持ち良い引退試合となりました。

皆様、これまでの応援ありがとうございました。コウダイの代はこれで幕を閉じますが、

---

[5] ユッキーは、この日のようにシンプルにプレーすると、もともとのスキルの高さと対人の強さがより打ち出せる。そして、たまに駆け上がったときのドリブルも活きる。

引き続き山東サッカー部への応援よろしくお願い致します。

3年生引退式行われる

7月29日（水）3年生引退式が行われました。以下では、主に1・2年生に対する3年生一人一人のコメントのダイジェストをお伝えします。

ワタル

いつどうなるか先の読めない時代、悔いのない部活動を行ってほしい。イメージを仲間に伝える力が大切で、おとなしすぎるのはダメ。

ハルタマ

昨年7月に水泳部から転部し短いサッカー部生活だったが、引退試合となった東海B戦で落ち着いてプレー出来て楽しかった。

ウエマツ

骨折2回、救急搬送1回、休部1回といろいろな経験をした。練習を作業のようにこなすだけではダメで、立ち止まって考え分析し他者に意見を求めてほしい。後悔はあるが、毎日の部活は楽しかった。

ユースケ

トレーニングでプレーの基礎レベルを今更向上できるか懐疑的だったが、信じて努力したら3年春には良いプレーができた。遊びもケジメをつけながら、仲間を大切にしてほしい。

ナカノ

要求をすべてこなそうと思わないで、自分のこだわりのあることとそうでないことを分け、こだわりとサボりをうまく使い分ければ着実に向上していける。今自分は成長を実感していて県総体で発揮したかった思いがあるので、1・2年は自分の分まで来年発揮してほしい。

ミノル

自分は合宿が辛かったが、全部を一生懸命やることは難しいので、メリハリをもって活動してもらいたい。自分は3か月休部した。現在退部した2年生を戻す努力してほしい。

ハク

コロナ終息後視野が広がるので海外に行ってほしい。思考の幅が広がる。サッカー部はサッカーをしたい人が自分で選んで所属している。辛い時もその原点を忘れないでほしい。

コクブン

自分の成長を楽しんでほしい。目標を持って取り組めば成長できる。コーチングで人を動かすことができれば、自分のプレーがしやすくなり、サッカーをより楽しめる。

ユッキー
個人の目標を持つことと、チームとしての目標を共有すること。それにより、温度差をなくし、良いチーム作りができる。

タグチ
マネージャーへの配慮。自分たちは日常から感謝の気持ちを伝える配慮が足りなかった。マネージャーの存在は重要。

モリヤ
今当たり前のことが今後も続くと思わない方が良い。だからこそ、一日一日悔いなく活動してほしい。1・2 年の時どれだけ勉強していたかで、3 年の位置が決まる。

ヤグチ
通算すると基礎(と呼ばれる二人組のボールコントロールの練習)に膨大な時間をかけている。意識低くやったらもったいない。CB として相手 FW をイラつかせることが喜びだった。練習では強度が低いから、試合でチャレンジすることを大切にしてほしい。

エグチ
勉強と部活の両立、合宿・遠征の多い部活の中で、忍耐力が鍛えられた。挨拶習慣、仕事への責任感、時間管理など人間としての成長もあった。サッカーを楽しくできて良かった。

ヒラマサ
それまでの自分のプレーが通じず、辞めたくなったこともあったし、指導に反抗したこともあった。自分の甘さをもっと早くから自覚し、謙虚に取り組めばもっと成長できた。

カザマ
時間を大切に。来年の大会だって安泰でない。一つ一つの練習の積み重ねを細かく振り返り、反省し、向上につなげてもらいたい。チャレンジする勇気を持ち、そこで知ったことを次の成長につなげる。感謝を忘れずに（特に両親への)。1・2・3 年生、勉強しましょう。

コウダイ
短期的な対症療法だけではダメで、長期的なビジョンをもち、自分のベース・可能性を広げる努力を大切にしてほしい。試合出場にこだわり緊張感をもって活動する、身近な手本から学ぶ、イライラせず余裕をもってサッカーを楽しむ。感謝の気持ちをもち、励まし合い、自分たちの分まで来年の県総体に臨んでほしい。

以上の通りです。16 名の選手諸君、山東サッカー部生活、本当にお疲れ様でした。山東サッカー部としての活動は、夏の OB 戦（山東サッカーフェスティバル――例年 8 月第一土曜日⇒今年は 8 月 1 日)、冬の納会を含め、今後も続きます。また、卒業してからも、OB としての「活動」は続きます。後輩の活動をしっかり見守って下さいね。